

令和4年度 病虫害発生予察情報(美濃地域) 6月予報

【 水稲 】

いもち病 (葉いもち)

箱施薬を実施していないほ場では、葉いもち初発生 (6月3半旬頃) の7~10日前に粒剤施用を行ってください。
なお、補植苗はいもち病の発生源となるため、速やかに除去をしてください。

【 かき 】

カキノヘタムシガ (カキミガ)

成虫の見取り調査では、本年の発蛾最盛期は5月14日と平年 (5月21日) より早く、発生量は樹あたり2.6頭 (平年2.0頭) とやや多い状況でした。防除適期は発蛾最盛期から7~14日後ですので、被害が多いほ場ではさらに7~10日後に追加防除を実施してください。

○主な病虫害の発生時期及び防除時期 (6月)

	病虫害名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項	
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬		
水稲	生育(コシヒカリ)								・田植え 5/9 (農業技術センター)	
	生育(ハツシモ)			< 田 植 え >					・田植え 6/10予定 (農業技術センター)	
	葉 い も ち	やや多			< 初 発 生 >				・箱施薬を実施する。	
	縞 葉 枯 病	少			< 初 発 生 >				・ 縞葉枯病 感受性品種では、縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの防除を徹底する。	
	ヒメトビウンカ	多		< 第1世代成虫 >					・ ヒメトビウンカ 箱施薬を行わなかったほ場では第1世代成虫最盛期に本田防除を行う。	
	ニカメイガ	少			< 成 虫 >					
	防 除 適 期			~ ■葉いもち・ヒメトビ・ニカメイガ ▲葉いもち・ヒメトビ						
かき	生育 (富 有)	やや早							・開花最盛期 5/15 (平年 5/19 : 農業技術センター)	
	ハマキムシ類	多						< 第2世代成虫 >	・ ハマキムシ類 幼虫発生初期の防除を徹底する。	
	カキノヘタムシガ	やや多								
	フジコナカイガラムシ	多		< 第1世代1齢幼虫 >					・ フジコナカイガラムシ 虫体に薬液が到達するように丁寧に散布を行う。	
	防 除 適 期			▲ フジコナカイガラムシ						
なし	黒 星 病	並				< 果実発病最盛期 >			・ 黒星病 発病が散見されるほ場では確実に防除を実施する。	
	防 除 適 期			黒星病 ▲ ~						
果樹	カメムシ類	やや多	< 越 冬 世 代 成 虫 >						・夜温が高い場合、突発的にほ場へ飛来する恐れがあるので、注意する。	
	防 除 適 期									
茶	生育(やぶきた:池田)	並						< 二 番 摘 採 期 >		
	生育(やぶきた:白川)	やや早						< 二 番 摘 採 期 >		
	岐阜 西濃	ハマキムシ類	やや多					< 第1世代成虫 >	・幼虫発生初期の防除を徹底する。	
		チャノホソガ	やや少	< 第1世代成虫 >					・ チャノホソガ 発蛾最盛期と萌芽~開葉期が合致すると被害がでるため、1~2葉期に防除を実施する。	
		防 除 適 期		▲チャノホソガ		▲ハマキムシ類				
	中濃	ハマキムシ類	並					< 第1世代成虫 >		
	チャノホソガ	少								
	防 除 適 期		▲ハマキムシ類							
野菜	コ ナ ガ	やや少							・同一系統薬剤の連用は避ける (薬剤抵抗性の発達)。	
	アブラムシ類	並							・ アブラムシ類 定植時に粒剤を施用する。	
	防 除 適 期									

病害虫名		発生量	発生時期及び防除適期	防除上の注意事項
施設	トマト 灰色かび病	やや多	前作では発病が多かったため、曇天が続く場合は発生が多くなると予測される。	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期の防除を徹底する。 施設内が多湿とならないよう、湿度管理に注意する。特に夜間は多湿となりやすいため注意する。
	トマト 葉かび病	少	前作では発病が少なかった。曇天が続く場合は発生すると予測される。	
野菜	キュウリ べと病	少	調査ほ場では発病が認められない。梅雨時期となるため、今後の発生に注意する。(発病葉率 0%)	<ul style="list-style-type: none"> 葉かび病 薬剤が確実に葉裏にかかるよう丁寧に散布する。 うどんこ病 過度の乾燥は発生を助長するため、注意する。
	キュウリ 褐斑病	少	調査ほ場では発病は認められない。罹病品種では今後の発生に注意する。(発病葉率 0%)	
	キュウリ うどんこ病	少	調査ほ場では発病は認められる。引き続き発生に注意する。(発病葉率 0.1%)	

注1) ▲、▲～▲：防除適期 ■：箱施薬

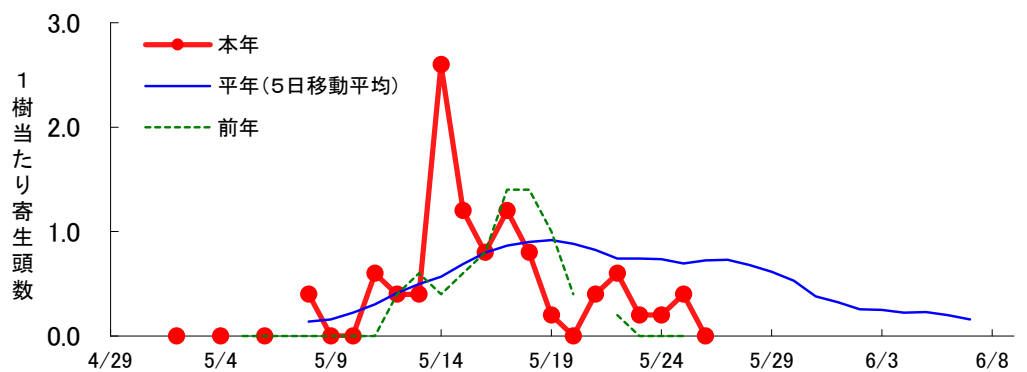
注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注3) 用語の定義及び基準については「発生予察事業の調査実施基準」に準ずる

カキノヘタムシガ (カキミガ)

カキノヘタムシガは芽付近に産卵し、孵化した幼虫は芽を食害したのち、ヘタ部や果梗から果実内に食入します。幼虫が果実内部に食入すると薬液が届かないため、食入するまでに防除することが重要です。本年の発蛾最盛期は5月14日と平年より早く、防除適期は5月下旬頃ですので、発生が多いほ場では1回目散布から7～10日後に追加防除を実施してください。

なお、[病害虫情報第2号 \(カキノヘタムシガに注意\)](#)も参考としてください。



見取り調査によるカキミガ(カキノヘタムシガ)越冬世代成虫1樹あたり寄生数の推移 (岐阜市木田)

カキ炭疽病

カキの炭疽病は糸状菌による病害で、主に新梢と果実に生じます。新梢に発病すると芽が枯れるほか、先端の葉が萎凋して枝が枯れることもあります。果実に発病すると黒色の小斑点を生じ、発病した果実は早く落果しやすくなります。

本病原菌は罹病枝芽や被害落葉上で菌糸の形で越冬し、翌年の春に分生胞子を生じます。この分生胞子が雨水によって飛散して、新梢や果実で発病します。病斑上に生じた分生胞子は二次伝染源となり、降雨が続くと再び発病が多くなるので注意が必要です。ほ場内をよく観察して本病の発生に注意し、以下の対策により本病の防除を徹底してください。

① 薬剤による防除

降雨が多いと発病が多くなるため、薬剤の散布間隔を短くするなど防除を徹底します。

② 伝染源の除去

発病した新梢や果実は二次伝染源となるため、早期に除去して処分します。罹病枝芽は翌年の伝染源となるため、冬期の剪定時に除去を徹底します。

なお、[発生予察注意報第2号 \(カキ炭疽病\)](#)も参考としてください。



6月～8月は「農薬危害防止期間」です。

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1か月予報 (名古屋地方气象台 5月26日発表)

向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。期間の前半は、天気は数日の周期で変わり、期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。
[https:// www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/](https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/)
 〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767



岐阜県病害虫防除所
トップページ
QRコード